

※一部非公開

平成23年度入学試験問題（後期日程）

小 論 文

教育学部 生涯教育課程 心理臨床科学コース

注 意 事 項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

図1～4は、日本の小学校4年生～6年生の映像メディア（テレビ、ビデオ、ゲーム、ケータイ等を指す）への接触時間と心の実態（自己肯定感や感情、共感性等）についての回答である（「子どものメディア接触と心身の発達に関わる調査・研究」2005年度報告書、文部科学省）。

- 問1 調査結果から、メディア接触と子どもの心理的側面との関連性について700字以上、800字以内で述べなさい。
- 問2 「心の発達に重要だと考えられること」について、調査結果を踏まえてあなたの考えを1000字以上、1200字以内で述べなさい。

非公開

図1 メディア接触時間と「自分が好き」質問項目との関連

非公開

図2 メディア接触時間と「生きていても仕方がない」質問項目との関連

非公開

図3 メディア接触時間と「ムカツクことがよくある」質問項目との関連

非公開

図4 メディア接触時間の決定（※1）と「痛みの共有（※2）」質問項目との関連

※1 メディア接触時間の決定とは、メディアへ接する時間を決めているか否か、決めている場合は誰が決めているかを指す。

※2 「痛みの共有」とは、人の痛みを我が痛みとして感じることを指す。

平成23年度入学試験問題（後期日程）

小論文

教育学部 生涯教育課程 心理臨床科学コース

出題の意図

20世紀後半から21世紀にかけてテレビ、パソコン、ゲーム、ケータイ等の電子映像メディアが急速に普及したことに伴い、若者の生活が大きく様変わりした。その結果、子どもたちの心身の発達にも影響が見られている。現代の若者文化に欠かせないメディア接触と心の発達との関連性について考えることは、本コースの教育目標である人間理解に即した重要なテーマと考えられる。

今回の問題では、受験生が子どものメディア接触と心理的側面との関連性について、どのように考察できるかを問う。さらに、本コースではグラフや表などの客観的なデータから問題の本質を読み取る能力を重視している。具体的には、以下の3点について問う。

1. メディア接触と心理的側面との関連性について、客観的な洞察力を問う。
2. 4つの調査結果から関連性を見いだす統合力を問う。
3. 調査結果を踏まえた「心の発達に重要だと考えられること」について、論理的かつ独創的な思考力を問う。